

事務事業	10003	子どもの発達支援事業	担当課 課長	健康課 作本 和美	担当係 担当者	健康管理係 瀬田 亮子
計後 画期 体計 系画	施策 05	子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる	予 算 科 目	会計	1	一般会計
				款	4	衛生費
				項	1	保健衛生費
				目	3	母子衛生費
法令根拠条例等			個別計画	健康増進計画「健康しめ21」		
実施期間	<input type="checkbox"/> 28年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H2 年度より開始 <input type="checkbox"/> 期間限定(複数年) 年度～ 年度					

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 健診・窓口相談において、子どもの言葉の遅れや集団になかなか馴染めない子ども等を対象にした親子で参加できる子育て教室。また、母親が育児不安が強い場合など母親支援の場ともなり、母親が安心して子育てができるよう支援を行う。保育士を中心に親子遊びを実施。母親の育児支援は心理相談員・保健師が担当、兄弟児の託児を看護師が実施する。 [しめキッズ教室]3回/2ヵ月、年18回、対象2歳児～就園前の児。定員20名。	<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください) 対象者の掘り起こし、教室内容の企画運営、個別支援の体制づくり、事業まとめ評価 教室生の兄弟児の託児の確認・依頼	心理相談員報酬 368 千円
	消耗品費 13 千円
	講師謝礼金 6 千円
	千円
	千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

事務 事業 の 目 的	① 手段(主な活動) 28年度に行った主な活動(※簡条書きで記入) [しめキッズ教室]年18回、季節に応じた室内遊び	④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
	② 対象(誰、何を対象にしているのか) 乳幼児健診、母と子の心の相談、来所相談等で発達に課題があり、集団教室の参加が必要と認められた児とその親	⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
		③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか) 安心して子どもを育てることができる。	⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

(2) 総事業費の推移

事 業 費	財源内訳(千円)	27年度 (決算値)	28年度 (当初予算)	28年度 (決算値)	29年度 (当初予算)	30年度 (計画)	31年度 (計画)
	国・県支出金、地方債等						
	受益者負担等						
	一般財源	674	731	386	827	827	827
	合計(A)	674	731	386	827	827	827
	(内臨時・嘱託職員人件費)						
	正職員人件費[按分](B)	1,416	1,077	202	2,034		
トータルコスト(A)+(B)	2,090	1,808	588	2,861	827	827	

事務事業評価表(事業実施年度:平成28年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
子育ての相談をする人がなく、孤立して悩む母親が増えてきたこと。また、子どもの発達に応じて母親が上手に対応できないなど、健診・窓口等の相談だけでは十分に支援できないことから継続的に成長を促す機会が必要となったため開始した。	近年の核家族の増加や、近隣住民との交流の希薄化などにより、育児に対して不安をもち、相談する人がいない方が増えている。また、子どもの発達において課題を持つ子どもや、養育環境の変化によって、育児に対して相談・支援を必要とする家庭が増えてきている。さらに、近年発達障害の支援ニーズをもつ子どもは学齢児の10%ともいわれており、健診等で発見したグレーゾーンの子どものための育児支援も必要である。	教室に参加した親からは、「子どもの成長を感じることができた」「子ども同士でふれあうことの大切さを学びました」などの感想が寄せられている。また、教室では、同じ悩みを持つ母親同士が話す機会もよく見られていたが、「もっと母親同士だけで悩みを共有する場がほしかった」という意見もありましたので、次年度は母子分離し、もっと母親だけで話す時間も設けたいと思います。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		28年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成28年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input type="checkbox"/> 有効性改善 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	現在2グループに分けて行っている教室を1本化し『しめキッズ教室』として年18回開催する。対象年齢は2歳～就園前までとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 記述どおり実施できた (コメント必要ありません) <input type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	

2 評価(SEE)及び全体総括の部 * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	子どもが健やかに成長・発達していくために、乳幼児健診などで発達に課題を持つ子どもたちが、他児と関わり、交流することによって子どもの成長を支援することができる。また、教室内で親の育児不安や悩みを相談できることで、わが子の成長や課題に目をむけ、必要な支援を受け入れることができるようになっている。そのことは、子どもが健やかに育つためには重要である。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	乳幼児健診等で成長・発達の課題を指摘された子どもたちを受け入れ、成長を促す場所・経過観察できる場所としては、重要である。また、発達障害の支援を必要とする子どもの割合は全国的にも増えており(当町でも同様な傾向がみられる)、今後より税金を使って実施する意義は増すと考えられるから。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	子の成長を感じたと思えるよう、初回アンケートで教室参加の目標を明確化し、教室にさんかしてもらおう。また、母子分離の回数を増やし、母親だけで話せる時間を設けることで、子の成長を促すことができる教室づくりを行う。
④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	乳幼児健診にてスクリーニングし、個別相談を実施しているが、集団にて子どもを伸ばし、成長を観察していく機会はとても重要である。現在町内の療育機関が体制として充実してきつつあるが、健診や相談にて療育機関に進めても半年近く待機が必要であることが現状である。そのため、現状として、廃止をすることは影響が大きい。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか? (広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	昨年度まで、年齢課題に合わせて2つのグループを実施していたが、幼稚園・保育園入園が低年齢化し、対象者も減っていることから、今年度2教室を合わせて1教室とすることでコスト削減が図られたと思われる。教室運営を中心で行っている保育士、発達課題に合わせた指導助言を実施している心理相談員の専門的な視点は必要不可欠であり、人件費の削減はこれ以上は難しい。

(2) 28年度を振り返って(全体総括・反省点)

昨年まで、年齢課題に合わせて2つのグループを実施していたが、幼稚園・保育園入園が低年齢化し、対象者も減っていることから、今年度2教室を合わせて1教室とし、コスト削減が図られたと思われる。また、今年度は、母親同士が仲良くなりすぎて、子育て広場と思って来られる方もいたので、この教室に目標をもって参加してもらえるように意識づけをすると、より子どもの成長を感じてもらえるのではないか考える。また、母子分離をして就園の話をしたのが好評だったので、次年度は複数回母子分離の回数を持ち、母親だけで話す機会も持てるようにしていきたい。
--

3 今後の方向性(29年度以降の計画と30年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) <input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	(2) 平成29年度以降に取り組む内容と期待される効果 ・初回アンケートに教室参加の目標を記入する欄を設ける。 ・母子分離の回数を増やし、母親だけで話せる時間を設ける。
---	---